

## 岐阜市

## 【地域の概要】

- 主要作物は水稲及び園芸作物で枝豆、だいこん、ほうれんそう、いちご、かき、ぶどうなど「ぎふベジ」として特産農産物として位置づけブランド化を図っている。
- 経営耕作面積が1ha未満の小規模農家が全体の8割を占めており、兼業農家や自給的農家の割合が多い。
- 市内の担い手は約160。
- 近年は新たな産物への取り組みとして、薬用作物の産地化をめざし振興部会の立ち上げなどを行っている。

## 取組開始前の状況や課題

- 専業農家や法人が少なく、集約して農業を行っている農家が少ない。
- 人・農地プランに基づき市内30地区すべてに担い手が設定されているが、実質的な運用ができていない地区が多い。
- 農地を相続した非農家や市外居住者が増加しており、耕作放棄地となりうる可能性の高い農地が増えている。
- 貸し手が借り手までたどりつかず、貸したくても借りてもらえない状況になっている。
- 貸付けを希望する農地が多く、また、条件の悪い農地も多くあるため、借り手の耕作可能な能力を超えている。

## 取組内容

- 農業委員、農地利用最適化推進委員合同で県農業会議の堀口氏を講師として招き、最適化推進に関する研修会を実施した。
- 意向調査を行うため「農地に関する意向アンケート」を作成し、各委員に調査のツールとして使用するよう説明を行った。
- 貸し手や耕作放棄地になりうる土地の調査だけでなく、借り手希望の確認も同時に行うことで、新たな担い手の発掘を進めている。



農業会議堀口氏を招いての研修会

## 今後の展開と方向性

- 農地がすべて市街化区域として指定されている地区に対して、どのように取りまとめていくかについて検討していく。（利用権や中間管理等での貸借ができないため）
- アンケートの配布方法や意見の聞き取りに関して地区ごとに意見の違いがあり地区それぞれにあった調査方法が必要。
- 実質の担い手がいない地区への借り手の誘導、新たな借り手の発掘などを行う。
- 集計した結果により集約が可能な場合は、農地交換や耕作権の交換等を進めていく。